挨　拶

戸田市教育委員会
教育長　戸ヶ崎　勤

戸田市立笹目東小学校におかれましては、戸田市教育委員会研究委嘱校として、リーディングスキルを出発点とした「見方・考え方」に着目した実践的な研究に取り組まれました。このたび、これまでの成果を紀要にまとめられましたことに、心から敬意を表します。

さて間もなく到来する Society5.0 の社会では、AI やビッグデータの活用をはじめ、予測不可能性が加速度的に高まります。そのような中、改めて子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにすることが求められています。そこで本市では Subject、EdTech、EBPM、PBL の４つの視点から教育改革を進めるべく、戸田市 SEEP プロジェクトに取り組んでおります。

このような中、笹目東小学校ではこれまでの研究を基に、本年度は国語科の授業改善に焦点を当て、戸田市版アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックを基に「国語ルーブリック」を作成し、育成する資質・能力を明確にしながら、授業改善を進めてきました。併せて、ＩＣＴを積極的に活用した時代に即した学びにも果敢に挑戦されています。

本研究の成果が、御参会の先生方をとおして、さらに多くの先生方に共有され、各学校の教育活動に生かされることを期待しております。

結びに当たりまして、上智大学総合人間科学部教育学科　教授　奈須 正裕 様をはじめとする御指導を賜りました先生方に心から御礼申し上げます。また、武藤校長先生のリーダーシップのもと、研究を推進してくださった教職員の皆様並びに関係の方々に感謝申し上げまして、挨拶といたします。

戸田市立笹目東小学校
校長　武藤　昌博

本校では、戸田市教育委員会から平成 30 年度より３年間の委嘱をいただき、研究主題「教師が変わる・授業が変わる・子供が変わる」のもと、「リーディング・スキルを出発点とした、見方・考え方に着目して」を副題とし、子供たちが大人となる 20 年後、30 年後の未来社会を見据え、授業改善に取り組んでまいりました。

子供たちが大人となる未来社会では、「何を知っているか」から「どのような問題解決を成し遂げられるか」という、実社会で生きて働く力である「資質・能力」が必要であるということを、私たちは、コロナ禍において、身をもって経験しました。まさにこれからの子供たちには、さまざまな問題や課題に対して、学校で身につけた力を自在に操り、問題を解決していく力を育成させていかなければなりません。

今年度は、上智大学総合人間科学部教育学科　教授　奈須 正裕 様を指導者に、国語科の説明的な文章に特化し、「新しい時代に必要とされる資質・能力」を教科等の特質に応じた見方・考え方に焦点をあて授業研究を進めてまいりました。

今後は、これまでの国語科の授業改善の成果をもとにして、さらに本校の教育活動全体の質の向上につなげてまいります。また、研究をさらに進めることで、大人となった子供たち一人一人が、自分らしく、自分の力を十分発揮し、活躍できるよう実社会で生きて働く「資質・能力」を育成してまいります。本校は、今後も常に「日本のあしたが見える授業」を創造し、「令和の学校教育」を着実に進めてまいります。

終わりに、本研究を進めるにあたり御指導賜りました　上智大学教授　奈須 正裕 様、並びに戸田市教育委員会に御礼申し上げ挨拶といたします。

研究の成果と課題

本年度、上智大学総合人間科学部教育学科　奈須 正裕 教授を講師にお迎えし、「教師が変わる・授業が変わる・子供が変わる」深い学びの研究の３年目として、国語「説明的な文章」に絞って、研究を進めてきた。奈須教授の御指導を受け、教員が教科書をもう一度研究し直し、「読みの用語」の系統性を学び、教材間や学年間の系統を意識して授業を行ってきた。その成果として、説明文の授業では「読みの用語」を道具として使う子供の姿や、３部構成や接続詞に着目し、「見方・考え方」を大事にしながら読み進める子供の姿が見られた。また、「説明的な文章」で学んだ文型を生かして、身の回りのものについて説明的な文章を書いたり、プレゼンテーションに生かしたりと、教科横断的な学びを得ることができた。今年度の研究の振り返りの教員アンケートでは「研究内容」「研究の教科領域」について、「良かった」という回答が約 75%、「おおむね良かった」という回答が約 25%という結果であった。教員が、奈須教授の御指導を受け、改めて教科研究を見直し、授業が変化し子供が変化したことを実感できた研究であったと言える。10 年後 20 年後の予測不能な未来に向かって、「説明的な文章」での学びを基に、既存の知識を結び付けて、社会の一員としてより良いアイディアを生み出し、筋道を立てて自分の考えを表現する子供たちを育てていきたい。

《令和２年度》御指導をいただいた先生方

上智大学総合人間科学部教育学科　教授　奈須 正裕 様
戸田市教育委員会　教育政策室指導主事　菊地 孝徳 様

○研究に携わった教職員

校　長　武藤　昌博
教　頭　田邊　雅也　　主幹教諭　金子　健二
冨樫もりえ　○森下　佳菜　中村　美穂　○寺山　光喜　髙野　萌
河端みゆき　相墨多計士　○田中　亜希　安藤　和史　吉田あずさ
◎土信田幸江　梅垣　愛　寺内　拓哉　津田　智也
☆谷木　瞳（授業研究部部長）　古谷早希絵　小林宗一朗　上野　佑季
☆津田文子（環境整備部部長）　加藤　剛　山崎　真　加藤　浩治
武田　隆子　山口　桃華　○谷口　篤志　三森　茂　長尾　宏一
☆肥後漱一郎（調査広報部部長）　細野亜希子　石塚　怜美　此﨑　彬
布施　人志　折間千代子　市川紀美子　大田　りさ　矢口麻里絵
山崎　樹　佐井　悦子　深田　金明　下林　重昭　三枝　伸子
新井三由紀　高橋　美貴　桐谷　幸子　根岸　恭子　仲尾次明美
岩田　愛　キース・ウルフ　菅原　幸子　白石久美子　川口千亜希
笹浪　祥子　今田　信弥

◎…研究主任　○…研究推進委員　☆…研究３部会部長

謝　辞

本研究を通して「教師が変わる　授業が変わる　子供が変わる」の実現に確かな手応えを感じることができました。しかしながら、研究途中であり、これからも「日本の明日が見える授業」を創造し続ける教師集団として研鑽を積んでまいります。御指導くださいました皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教　頭　田邊　雅也

平成 30 年度・令和元年度・２年度
戸田市教育委員会研究委嘱

研究紀要

令和２年度研究主題

「教師が変わる・授業が変わる・子供が変わる」
深い学びの研究

～リーディング・スキルを出発点とした、見方・考え方に着目して～

戸田市立笹目東小学校
〒335-0034　埼玉県戸田市笹目３丁目 17 番 12 号
TEL：048-421-6674　FAX：048-422-6095
https://www.toda-c.ed.jp/sasamehigasi-e/

平成 30 年度・令和元年度・２年度　校内研究テーマ

「教師が変わる・授業が変わる・子供が変わる」深い学びの研究

～リーディング・スキルを出発点とした、見方・考え方に着目して～

１年目：各教科におけるリーディング・スキル（ＲＳ）の研究

２年目：リーディング・スキルを出発点とした、各教科の見方・考え方の研究

３年目：（国語「説明文」に特化）「見方・考え方」「読みの用語」系統性を踏まえた授業研究

教師が変わる

学年研修
- 教科書研究（新旧教科書を比べる）
- 「読みの用語」の系統性
- 指導案立案
- 互いに見合い授業検討を重ねる

（１）授業研究部

①国語の深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、既存の知識を相互に関連付けて、「見方･考え方」を働かせながら、児童が新たな問題を見出し、新しい知識や「見方・考え方」を獲得したり、活用したりすることに向かう学び。

②説明文で働かせたい「見方・考え方」

＜見方＞
- 問いかけていることは何かに着目する。
- はじめ―中―おわり（序論―本論―結論）に着目する。
- 話の題名やはじめ・おわりで書かれている文章の内容について詳しく書かれていることは何かに着目する。
- 「例えば」「このように」「まず」「次に」等のつなぎ言葉や時間の流れを表す言葉に着目する。
- 情報と情報の関係（共通･相違､事柄の順序､理由や事例､原因と結果､具体と抽象）に着目する。
- 文末表現に着目する。
- 筆者の主張・考えと構成に着目する。
- 文型（双括、頭括、尾括、時系列）に着目する。

＜考え方＞
- 比較　・分類　・分解
- 一般化　・類推　・系統化

深い学びに至るイメージ図
（授業研究部作成）

（２）調査広報部

①笹目東小学校国語版ルーブリックの作成及びその活用

- 国語の授業を通して育む「見方・考え方」を整理したものが「笹目東小学校版国語ルーブリック」。本時で育む「見方・考え方」を明確にしたうえで、授業を行うことができるようにすることを目的として作成した。

②戸田市授業用ルーブリックの活用

- 研究授業では、国語ルーブリックと「戸田市版授業用ルーブリック」を活用して授業の分析を行った。また、ルーブリックの集計は授業後に参観した教員が QR コードを読み取り、直接回答した。

笹目東小国語ルーブリック（調査広報部作成）・戸田市授業用ルーブリック

（３）環境整備部

各種掲示物、資料のまとめ
- 「読みの用語」系統表

学年	3年	4年	5年	6年
①教材名 ②単元名 ③学習内容 ④キーワード	①言葉で遊ぼう／こまを楽しむ ②段落とその中心を捉えて読み、かんそうを伝え合おう ③段落の役割について理解 情報と情報の関係理解（全体と中心） 段落相互の関係に着目しながら考えと理由・事例との関係を捉える	①思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える ②筆者の考えを捉える ③始めと終わりの両分で考えを繰り返し述べる 具体例と段落どうしの関係を捉える	①見立てる ②要旨を捉える ③始めと終わりの両分で考えを繰り返し述べる 具体例と段落どうしの関係を捉える	①笑うから楽しい／時計の時間と心の時間 ②筆者の主張とそれを支える事例を捉える ③文章の構成を捉える 主張と事例の関係から要旨をつかむ 事例を挙げることの効果を考える 自分の経験や考えと比べながら読む（批判的に読む）

- 階段掲示の作成と修正

- 掲示板の作成

３年目より　講師：上智大学総合人間科学部教育学科 **奈須 正裕 教授**

中央教育審議会教育課程部会生活・総合専門部会委員
文部科学省　学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　作成協力者
著書「資質・能力と学びのメカニズム」他、多数

授業が変わる

9月8日(火)

４年「アップとルーズで伝える」～自分の好きなことで対比の文章を書こう～
- 教科書を見比べる
- 双括型、頭括型、尾括型の重要性
- 対比（2× 2）の意味とは
- ICT での作文の良さ

10月8日(木)

１年「うみのかくれんぼ」～いきもののかくれ方を２年生にわかりやすく伝えよう～
- 一般構造（教材の構造）を見抜き、自分で書く説明文に使う
- 発問構成の重要性

11月12日(木)

６年「鳥獣戯画を読む」～３部構成を「見方・考え方」を働かせながら分ける～
- 説明文の系統性とは
- 中学校での実践

12月3日(木)　研究発表授業

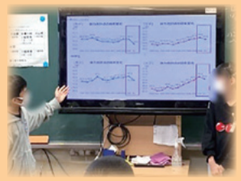
２年「おにごっこ」
３年「すがたをかえる大豆」
５年「想像力のスイッチを入れよう」
- 子供の力を発揮する課題設定
- 子供の発言の聞き方
- 教材文の活用

令和２年度　研究仮説

見方・考え方に着目した授業を展開することで、子供の学びが主体的･対話的で深い学びへと変わり、新しい資質・能力を育むことができるであろう。

子供が変わる

校内研究の成果
- 授業で「読みの用語」を各学年で使い、系統性をもって学ぶ
- 説明文を「見方・考え方」をもって、読み進める
- 説明文の一般構造をなぞる→活用できる
- 説明文の型の活用（頭括型・双括型・尾括型）

教科横断的な学びの例

１年:「説明文」一般構造→２年生へのクイズ
４年:「説明文」説明文の対比→学級活動・日記・リーフレット作成
６年:「説明文」説明文の文型→戸田市プレゼンテーション大会